

FOA-NEWS

通算第33号

2012/12/10

William LeMonnier 氏 釜石市の鵜住居保育園、釜石保育園を訪問

東 俊

4月13日(金)

16:35 UA0891便にて成田に到着→高輪プリンスホテルへ

4月14日(土)

翌日、すぐに関東審判部のクルーと日大 vs. 慶應大の試合に臨む。

10:00 プリゲーム・ミーティング@日本体育大学

13:00 日本体育大学 VS 慶應義塾大学(R)

17:00 クリニック@サンピアンかわさき

2011年度のボウルゲームの解説とメカニック解説

“甲子園ボウル, AZUMA BOWL, Mechanics”

19:30 ウェルカム・パーティ@サカサカかわさき

4月15日(日)

9:00 ゲーム・レビュー ピックアップ@ホテル
日体大 vs. 慶應大の試合の映像から解説用の映像を抽出

13:00 ゲーム・レビュー@川崎市教育文化会館
日体大 vs. 慶應大の試合のクルーを中心に実施。参加可能な部員にも開放した。

14:50 ディスカッション@川崎市教育文化会館
新人審判が会うであろう様々な事柄を織り込んだ、クルーとしての大事な事柄を話してもらいました。

“CREW DYNAMICS”

18:00 ビデオ・クリニック@モナリザン

映像を見ながら、Bill の解説を聞く贅沢な懇親会

4月16日(月)

12:00 ホテル・チェックアウト

→茨城県ひたちなか市へ

拙宅にて一泊

笹田さん、伊藤さん、馬島さんとの五人旅です。
釜石市の保育園訪問、仙台での東北審判部へのクリニックのための旅が始まりました。

4月17日(火)

9:00 岩手県に向けて出発：ドライバーは馬島さん。途中、「樅の木は残った」で有名な船岡城址を見学、桜の花見を想定していましたが、今年は寒さで、約1か月ほど遅れての開花らしく、花は堅いつぼみのままでした。その後、近くの「萩の月」の工場に立ち寄りしました。

15:00 「浦霞」の工場見学。見学後の利き酒にご満悦。この日は、安比に宿泊。安比にはまだ雪がたっぷりと残っていました。



4月18日(水) Bill's Birthday!!!

9:00 遠野にて、東北審判部の清野さんと待ち合わせ。鵜住居保育園と保育園跡、釜石保育園を見学。鵜住居保育園跡では、空の弁当箱を拾って、「これを洗ってきれいにして、孫たちに見せて、日本であったこの震災のことを話そうと思う。」と言っていました。釜石保育園では、園児たちが、わざわざ到着を待っていてくれて、発表会で演技する「虎舞」を踊って見せてくれました。園児たちも、去年の訪問を覚えていたようです。丁度、テレビと新聞の取材が入っていて、Bill のことは、地元のメディアでも取り上げられました。Bill のスピーチには感動し

ましたし、彼の本当に嬉しそうな顔は忘れられません。その後、仙台へ移動。



19:00 クリニック@ANA ホリデーインホテル
“RICE BOWL” の映像を使っのクリニックを実施。

20:30 東北審判部主催の歓迎会@焼タンのお店
牛タンは食べられないと言っていた Bill が、おいしいおいしいと食べていました。(少しだましましたが...)

4月19日(木)

9:00 東北審判部長の清野さんのご案内で、仙台市の海岸沿いの「荒浪地区」「閑上地区」へ。
「荒浪地区」では、清野さんが用意してくれた花を、Bill が献花しました。多くの生活の跡がうかがわれたが、今は、何もなかった所になっていました。

14:45 Bill は、仙台空港から一路大阪へと旅立ちました。

東京までのドライブを含めて、運転は馬島さんにまかせっきりでした。長距離のドライブ、お疲れ様でした。ありがとうございました。

4月23日(月) Bill 大阪より東京に移動。

19:00 クリニック@芝浦
“RICE BOWL” “Mechanics”

21:00 懇親会

4月24日(火)

17:50 UA0890で成田から帰国



インターナショナル・チャレンジ・ボウル

宮田應輝／記・佐藤昌信・川田丈浩

5月19日(土)。ドレスデン市、グリュクスガース・スタジアム(25℃/晴)。

緯度の高い同市では、5月中旬になると20時頃でも日は暮れません。18時過ぎにキックオフした試合は、薄暮の中、20時15分にゲームオーバーとなりました。得点は29-17。日独国際親善の一環として開催された「インターナショナル・チャレンジ・ボウル」は、ピジターのオービック・シーガルズが、終始試合の主導権

を握りつつ、地元ドレスデン・モナークスがこれを追う展開でした。観客は約6000人。TVタイムアウトはありませんでしたが、地元テレビ局の生中継がありました。

サッカー専用スタジアムをこの試合の為にわざわざ整備して使用しました。この為フィールドの縦方向が120ヤードに若干満たない等の不備もありましたが、天然芝を短めにカットした設備の整った美しいグラウンドでし

た。

特筆すべきことは、鳴り物で応援が試合中終始行われたことでした。スタジアムの屋根が観客席に覆いかぶさる形状で、オープン・フィールドでありながら、東京ドーム並に反響したこと。さらにアナウンサーの絶叫的な実況で、クルー同士の「声」によるコミュニケーションは殆ど取れませんでした。しかしながら、主審と3人のドイツ審判員は、このような環境での試合には慣れているようで、アイコンタクトやシグナルでのコミュニケーションは非常にうまく、「声」が聞こえない事による支障は殆どありませんでした。これもプリゲーム・ミーティングの効果でした。



グリュックスガース・スタジアム（手前のクロスバーがエンドゾーンに入っている）

プリゲーム・ミーティングは、試合当日に2回行われ、都合4時間近くにも及びました。午前中は、宿舎のホテルの会議室で開かれました。

日独英の混成チームと云う特異性から、メカニックとルール確認を中心とした2時間半のミーティングとなりました。また、レフリーのウィックマン氏から事前にEメール配信されたルールテストのチェックもありました。使用言語は英語。ドイツ人同士の会話も全て英語で、レフリーに対する敬意の現れでした。これには脱帽でした。

私たちが一番懸念していたのは、メカニックの相違でした。日本ではCCAのメカニックをベースにしていますが、欧州は国によりBAFRA、またはIFAFのメカニックを採用していて、役割分担や動き方等に色々と相違があるからです。事前に情報を頂いて、ある程度の相違点は把握しておきましたが、最終的には、CCAに近い混成メカニックに落ち着きました。日本的に言えば、2011年春季シーズンに相当します。

メカニックやフィロソフィーに関しても「レモニア氏がこう言っていた・・・」と云うフレーズを何度となく耳にし、同氏の普及活動が欧州にも浸透してきていることを実感しました。

遅めのランチは、試合会場をチェックした後、クルー全員で近くの公園のオープン・レストランでドイツランチを取りました。その後は、試合開始まで常に全員同一行動で、お互いを知り合う機会とし、コミュニケーション

の確立に努めました。私たちも日本人だけでかたまることもなく、積極的にコンタクトを試みました。

試合会場でのミーティングは、フィールドの状況に合わせたメカニックの確認がメインでした。レフリーがジョークを交えながら和やかな雰囲気が進め、適度な緊張感を保ちながら、非常にゆったりとした気持ちで試合に臨む事が出来ました。これが、クルーチーフとしての効果なのでしょう。



ホテルでのプリゲーム・ミーティング
左から、川田、ウィックマン（R）、リエスケ、宮田、コプカ

ほんの数日間の短い期間でしたが、日本のトップクラスのチームに同行できたことは非常に良い経験でした。特にチーム関係者の日常生活を垣間見られたことは、大きな収穫でした。私たち審判員がチーム関係者と接するのは、戦いの場として、興奮したテンションの上だった試合中が殆どです。時としてその荒々しさを彼らの性格と断定することさえもあります。しかしながら普段は礼儀正しく、真面目に、そして真摯にアメリカンフットボールに取り組んでいる姿でした。そこにこのチームの強さの一端を見ると共に、私たち審判員も、その努力に酬いるオフィシエティングを常に心がける気持ちを新たに出来た機会でもありました。

このような稀有で素晴らしいチャンスを得られたことに、私たちは、関係各位に心から感謝いたしております。

「今日のモナークスは紳士だったね」ドイツ審判員の試合後のコメントでした。この言葉からも今回の親善試合が成功裏に終わった事を確信しました。

オフィシャル・クルー：

- R：キース・ウィックマン（英：ロンドン在住）
- U：セバスチャン・バルト（独：ハノーバー在住）
- H：ヘニング・リエスケ（独：ベルリン在住）
- L：佐藤 昌信
- B：宮田 應輝
- S：川田 丈浩
- F：アンドレアス・コプカ（独：キルシュ在住）



佐藤、コプカ、宮田、ウィックマン（R）、バルト、リエスケ、川田（左から右へ）。
グリュックスガース・スタジアムにて

2012 TASO Football State Meeting 参加報告

中内克行／記・伊藤義樹

毎年関東審判部から参加している「TASO Football State Meeting」に伊藤義樹氏とともに参加してきました。TASO とは、テキサス州内の主に高校の審判（Div1 から Div3 まで全て）を対象としたミーティングで、今年はアメリカ合衆国テキサス州南部マッカレンにて 7 月 27 日から 28 日に開催されました。インストラクター委員として、クリニックの企画等に携わってきましたが、本場アメリカでは、どのような研修が行われているのか現地で確認したいとの欲求が年々強くなり、今年は、会社の業務的にも問題ない時期と判断し、約 20 年前の新婚旅行以来の海外に旅立ち、研修を受講することを決意いたしました。

羽田を出発、サンフランシスコ空港のロビーで一夜を過ごして、ダラスフォートワース経由、機器トラブルによるサンアントニオでの不時着を経て、暑いマッカレンに辿り着き、クーラーが効きすぎた寒い研修所で、審判研修を受講して参りました。その内容について報告させていただきます。

《研修内容》

7月27日（金）

フィールドクリニック(18:00~20:00)

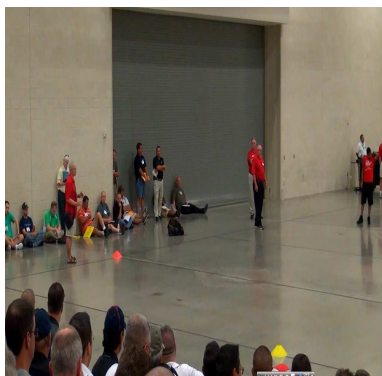
参加の申込はしていなかったのですが、見学させていただきました。内容としては試合前、ポジション別に分かれて、各スタッフより基本的なメカニクを解説、試合中は、1人あたり数プレーずつ交代でフィールドに入り、各ポジション 1~2 人のスタッフが配置し、フィールド内のオフィシャル及びサイドラインで待っている人たちに対して基本的な動きや注意点など 1 プレー毎にアドバイスしていくというものでした。次プレーが始まるまで、時間が許す限りメカニク等の内容を伝えていこうという姿勢が感じられました。FOA の昨年度フィールド・クリニック（旧人/新人）と同様のスタイルで、基本的な内容を丁寧に繰り返し解説していました。当該スタイルは有効な方式の 1 つであると思いました。



7月28日（土）

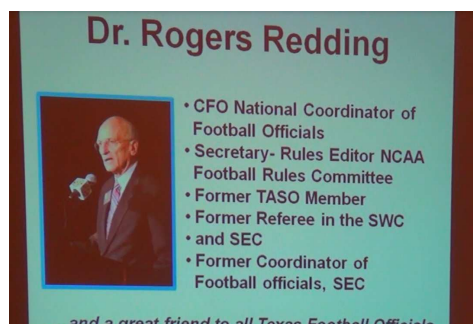
Live Presentation Position & Key they change from Crews of 3,4,5 and 7(8:00~10:00) 体育館のようなフロアで、プレーヤー、審判を想定したスタッフ、フリーキック、通常のスクリメージプレー、バントプレー等を想定してセットし、各ポジション別にスタッフがメカニクのポイント（どのプレーヤーをキーにするのか等）を解説いただきました。受講者は観客席のような場所からの受講で、このようなスタイルの研修もあるのかと感心いたしました。座学と違い現場に近い感覚で非常にわかりやすかったと思いました。

クリニックのグループ別ディスカッションのスタイルが望ましいなと思いました。



2012 Rule changes Rules Discussion (10:45~12:00) Roger Redding

Roger Redding 氏による2012年度のルールチェンジの解説です。冒頭に Redding 氏の紹介がありましたが、TASO メンバーだったこともあり、全員起立し拍手で迎え入れる凄さで、あらためて偉大な人物であると実感させられました。内容はルールチェンジのプロセスの説明から始まり、Kick off、Blocking Below The Waist、Helmet Coming Off、Leaping Punter Protect Shield、Kick Catch Interference 等の2012年度の公式規則の主要変更項目について順次解説いただきました。TD 誌に氏の紹介記事が掲載されましたが、お土産としてお渡し、大変喜んでおりました。



Working a Game - What you won't find in the Rule Book (13:00~14:15)

ルールブックには記載されていない試合に関する事項(例、試合前までにクルーのコミュニケーション等)について、ディスカッション形式で行われました。1人1人が質問を行い、各スタッフが回答していくというものでした。質問する人は2から3名の特定の人になっておりましたので、質問しやすくするために、このような方式は少人数で行った方が良くないと、今年度実施したレフリー

"Uh Oh" Game Situations (14:30~15:45)

Wise "Uh Oh" (うわ、やばい!) という状況を、映像を混じえて解説いただきました。"Uh Oh" という状況であり、映像が流れる毎に、響めきあり、笑いありと大変盛り上がりました。映像での解説はインパクトがあり、記憶に残る効果もあるなあと思感いたしました。今、各試合を撮影しており、面白い映像データが溜まっていますが、研修等で有効活用できないかなあなどと思っております。

Penalty Enforcement (16:00~17:15)

Stephenson 罰則施行に関する事項について解説いただきました。プレーの定義、各地点、オフセット等の罰則施行にあたり知っておかなければならない基本的な事項をじっくりと説明を受けました。具体的な図を使用しての説明でしたので、非常にわかりやすかったと思います。FOA でのケーススタディは文章等が多く、図等で説明したらわかりやすくなるなあと思いつつ、面倒で省略してしまう私がはすかしく感じました。

以上、2日間の研修内容の概要です。どのような方式で行われたかをメインに記載しましたが、研修の内容は撮影させていただきましたので、今後、繰り返し確認を行い、FOA の皆様に役立つように検討していきたいと思っております。2日目については、1日でこれだけの量をやるのかと驚きでしたが、あっという間に過ぎました。クーラーがガンガンにきいており非常に寒かったのが難点で "Freezing Freezing" (超寒い) と怒っている人がけっこういました。内容濃く個人的には良い刺激を受けました。このような機会を与えていただき大変感謝です。また、ルイス氏とも親交を深めることができ、非常に有意義なマッカレンでした。

